

# 2025年度 教科課程

## 鍼灸科

系列		開講科目名 (英語表記)	必修 選択	授業 形態	時間 数	単 位 数	講義概要
基礎分野	科学的 思考の 基盤  人間と 生活	生物学 (Biology)	必修	講義	30	(2)	生理学を理解するために必要な人体生理機能ならびに基礎的な科学について学習し、生理学への橋渡しを目的とする。
		情報処理学 (Information Processing)	〃	演習	60	(2)	コンピューターの基礎知識から基本的操作方法について学習する。
		外国語 (Foreign Language)	〃	講義	30	(2)	鍼灸はその効果より国内のみならず海外においてもそのニーズは高く、活躍の場が世界に広がっている。また施術所に来院される患者の国籍も多様化していることから日常的な英会話力を養い、交流を図れる力を養う。
		保健体育Ⅰ (Health and Physical EducationⅠ)	〃	演習	30	(1)	スポーツ活動を通じて運動の楽しさや喜び、チームワークの重要性や責任、参画などに対する意欲などを育む。スポーツが第一次予防の視点から生活習慣病予防・介護予防に役立つ根拠について学習する。
		保健体育Ⅱ (Health and Physical EducationⅡ)	〃	〃	30	(1)	運動機能に関心をもち、ウォーミングアップやクーリングダウン、スポーツ現場における一次救命処置などに関する基礎的な知識についてスポーツ活動を通じて学習する。
		保健体育Ⅲ (Health and Physical EducationⅢ)	〃	〃	30	(1)	健康づくりや体力増進に必要なトレーニングや競技特性を理解し、傷害予防についてスポーツ活動を通じて学習する。
		人間関係心理学 (Interpersonal Psychology)	〃	講義	60	(4)	社会生活を営むに当たって必要な一般的常識からマナーについて学習する。グループワーク等を通じてより良い人間関係構築のための交流、協力、連携、心を通わす、他者とのコミュニケーションについて学習する。
		高齢者の心理と支援 (Geriatric Psychology and Assistance)	〃	演習	30	(1)	高齢者の保健に寄与するため福祉の基本理念や高齢者福祉制度やサービスについて学習する。高齢者の身体的特徴を理解し、介護・介助のあり方およびコミュニケーション方法を学習する。高齢化社会における生命倫理、人間の尊厳について幅広く学習する。
専門基礎分野	人体の 構造と 機能	解剖学Ⅰ (AnatomyⅠ)	〃	講義	90	(3)	解剖学は人体の構造に関する科目であり、生理学と合わせて臨床医学系科目を理解する上で必須となる科目である。解剖学Ⅰでは骨格系・筋系・循環器系について総合的に学習する。
		解剖学Ⅱ (AnatomyⅡ)	〃	〃	90	(3)	解剖学は人体の構造に関する科目であり、生理学と合わせて臨床医学系科目を理解する上で必須となる科目である。解剖学Ⅱでは内臓器官系と循環器系、神経系、感覚器系について系統立てて学習する。
		生理学Ⅰ (PhysiologyⅠ)	〃	〃	60	(2)	生理学は人体の諸器官の機能に関する科目であり、解剖学と合わせて臨床医学系科目を理解する上で必須となる科目である。生理学Ⅰでは人体植物性機能について学習する。
		生理学Ⅱ (PhysiologyⅡ)	〃	〃	60	(2)	生理学は人体の諸器官の機能に関する科目であり、解剖学と合わせて臨床医学系科目を理解する上で必須となる科目である。生理学Ⅱでは人体動物性機能について学習する。
		運動学Ⅰ (KinematicsⅠ)	〃	演習	30	(2)	運動学では解剖学で学習した人体構造を基に人体の動きや動作のメカニズムについて学習する。運動学Ⅰでは筋の作用と関節可動を関連付けて学習する。

系列		開講科目名 (英語表記)	必修 選択	授業 形態	時 間 数	単 位 数	講義概要
専門基礎分野	疾病の成り立ち、その予防及び回復の促進	運動学Ⅱ (Kinematics II)	必修	演習	30	(1)	運動学では解剖学で学習した人体構造を基に人体の動きや動作のメカニズムについて学習する。運動学Ⅱでは運動学Ⅰで学習した正常な動きや動作を取り戻すための運動療法など診察、施術に活用できる知識と技術について学習する。
		衛生学・公衆衛生学 (Hygiene and Public Health)	〃	講義	60	(2)	衛生学公衆衛生学は疾病予防と健康の保持・増進に関する科目である。人間の生活や社会、環境が健康にどういった関わりがあるのか理解するために公衆衛生の概念、環境と健康との関連、地域・学校・職域などの集団、個人を対象に疾病の予防と健康診断と健康増進などについて学習する。
		病理学概論 (Introduction to Pathology)	〃	〃	60	(2)	病理学概論は病気の原理を理解し、基礎医学系と臨床医学系の架け橋となる科目である。病理学概論では疾病によっておこる様々な変化を発生機序と転帰について学習する。
		リハビリテーション医学 (Rehabilitation Medicine)	〃	演習	60	(2)	リハビリテーション医学は身体的回復や生活、社会参加、職業復帰、さらには心理的側面までできる限りの回復を図ることを目的とした科目であり、リハビリテーションの理念と医学的リハビリテーションの対象や評価方法などについて学習する。医療連携演習を踏まえ、その他医療系資格を目指す学生と合同で実地シミュレーションを行う。
		臨床医学総論 (Clinical Medicine in General)	〃	講義	60	(2)	臨床医学総論は患者の状態を把握するために必要な現代医学的基礎的知識について学習する。鍼灸臨床上で病態把握に必要な診察技法、検査法や病状、疾病の判断に関する知識を体系的に養う。
		臨床医学各論Ⅰ (Clinical Medicine Part I)	〃	〃	60	(2)	臨床医学各論では今まで学習した解剖学、生理学、臨床医学総論などの現代医学的基礎的知識を活用し、現代医学に基づいた疾患の概念、原因、症状などを系統別に学習する。臨床医学各論Ⅰでは整形外科疾患、脳神経外科、一般外科疾患、麻酔科や呼吸器内科など一般診療科の代表的疾患について学習する。
		臨床医学各論Ⅱ (Clinical Medicine Part II)	〃	〃	60	(2)	臨床医学各論では今まで学習した解剖学、生理学、臨床医学総論などの現代医学的基礎的知識を活用し、現代医学に基づいた疾患の概念、原因、症状などを系統別に学習する。臨床医学各論Ⅱでは内科系疾患、泌尿生殖器疾患、その他疾患について学習する。
	保健医療福祉と あん摩マッサージ きゅうの理念	医療概論 (Outline of Medicine)	〃	〃	30	(1)	医療概論では日本の医療システムや医療を求める人々の心を知り、「病」とは「医学」とは「医療」とは何かの原点より、医療行為としての鍼灸をいかに社会に役立てていくかについて学習する。医療従事者として鍼灸施術を行うために社会保障制度や職業倫理についても学習し、鍼灸施術が社会的資源として活用できるよう知識を養う。
		関係法規 (Laws in Medicine)	〃	〃	30	(2)	関係法規では「はり師・きゅう師」の資格や業務に従事する上で必要な法律・関係法規等について学習する。将来、「はり師・きゅう師」として業務にあたる上で必要な法律、関連法規(社会保障制度を含む)の解釈および、それに関連する事例などを学習する。
	専門分野	基礎はり学・基礎きゅう学	東洋医学概論 (Outline of Oriental Medicine)	〃	〃	60	(2)
経絡経穴学Ⅰ (Acupuncture Meridians I)			〃	〃	60	(3)	経絡経穴学は鍼灸臨床の基本をなす科目であり、経絡経穴は身体の異常を表し、東洋医学的診察、施術には欠かせない重要なものである。経絡経穴学Ⅰでは経絡の種類や走行、経穴名について学ぶ。
経絡経穴学Ⅱ (Acupuncture Meridians II)			〃	〃	60	(3)	経絡経穴学は鍼灸臨床の基本をなす科目であり、経絡経穴は身体の異常を表し、東洋医学的診察、施術には欠かせない重要なものである。経絡経穴学Ⅱでは経絡経穴学Ⅰで学習した経穴および奇穴の取穴部位や取穴方法について解剖学的知識を基に学習する。
はりきゅう理論 (Scientific Foundation of Acupuncture)			〃	〃	30	(1)	はりきゅう理論は「はり術、きゅう術」の定義、はり・きゅうの種類、それぞれの術式から始まり、鍼灸の作用機序等を生理学的観点から学習する。鍼灸の科学的研究や基礎医学的知識を通して鍼灸治効のメカニズムを学習する。

系列		開講科目名 (英語表記)	必修 選択	授業 形態	時間 数	単 位 数	講義概要
専門分野	臨床はり学・臨床きゅう学	鍼灸診察学Ⅰ (Diagnostics of Acupuncture and Moxibustion Ⅰ)	〃	演習	60	(2)	鍼灸診察学では東洋医学概論で学んだ知識を活用し、東洋医学的な診察法や病態把握の方法論について学習し、鍼灸臨床における問題解決、適・不適の判断能力を養う。
		鍼灸診察学Ⅱ (Diagnostics of Acupuncture and Moxibustion Ⅱ)	〃	〃	30	(1)	鍼灸診察学Ⅱでは総合的診察(プライマリケア)を理解し、はりきゅう臨床の適否のベースとなる病態把握についての考え方を学習する。 画像診断の種類、基礎的知識、物理療法の種類、基礎的知識について学習する。
		東洋医学臨床論Ⅰ (Clinical Oriental Medicine Ⅰ)	〃	講義	60	(3)	東洋医学臨床論では臨床上で扱う一般の疾患・症候に対して幅広い対応が行えるよう現代医学的な考えに基づく診察と施術について学習するとともに東洋医学的な観点からの診察と施術法についても学習する。 特に東洋医学臨床論Ⅰでは呼吸器疾患、運動器疾患、脳神経疾患、末梢神経疾患等について学習する。
		東洋医学臨床論Ⅱ (Clinical Oriental Medicine Ⅱ)	〃	〃	60	(3)	東洋医学臨床論では臨床上で扱う一般の疾患・症候に対して幅広い対応が行えるよう現代医学的な考えに基づく診察と施術について学習するとともに東洋医学的な観点からの診察と施術法についても学習する。 特に東洋医学臨床論Ⅱでは消化器系疾患、循環器系疾患、泌尿器生殖器疾患に加え耳鼻科、眼科、膠原病等について学習する。
		臨床鍼灸学Ⅰ (Clinical Acupuncture and Moxibustion Ⅰ)	必修	講義	30	(2)	臨床鍼灸学は基礎医学系、臨床医学系で学習した内容を整理し、実際の臨床の場で活用できるよう問診から徒手検査、医療従事者としての身構え、心構えなどを養う科目である。 臨床鍼灸Ⅰでは臨床の入口であり、医療従事者としての「心構え、態度、実践意識」を養い、また「患者とのコミュニケーション構築」に最も重要な働きを担う医療面接について、その重要性と基本的な医療面接の流れと技法について学習する。
		臨床鍼灸学Ⅱ (Clinical Acupuncture and Moxibustion Ⅱ)	〃	演習	30	(1)	臨床鍼灸学は基礎医学系、臨床医学系で学習した内容を整理し、実際の臨床の場で活用できるよう問診から徒手検査、医療従事者としての身構え、心構えなどを養う科目である。 臨床鍼灸学Ⅱでは病態把握を行う際に必須となる身体計測や徒手検査等について学習する。
	体表観察 (Surface Observation)	〃	〃	30	(1)	体表観察は鍼灸臨床の場において体表を診察し治療部位を決定することから、体表から観察可能な局所解剖学の知識及び鍼灸臨床で重要かつ必要な経穴の取穴や各種反応点の観察技術について学習する。	
	社会はり学 社会きゅう学	社会はりきゅう学Ⅰ (Social Acupuncture and Moxibustion Ⅰ)	〃	〃	30	(1)	社会はりきゅう学では3年間の学生生活やはり師きゅう師の仕事の理解、自身の目指す「はり師・きゅう師」像、そして将来ビジョンについて主体的に設計し、判断する能力を養う科目である。 社会はりきゅう学Ⅰでは1年次に必要とされる専門職を目指す学生の姿勢や態度、学校生活、学びの方法や技法について学習する。 研修会やセミナーに参加し、鍼灸について更なる関心の喚起を促す。
		社会はりきゅう学Ⅱ (Social Acupuncture and Moxibustion Ⅱ)	〃	〃	30	(1)	社会はりきゅう学では3年間の学生生活やはり師きゅう師の仕事の理解、自身の目指す「はり師・きゅう師」像、そして将来ビジョンについて主体的に設計し、判断する能力を養う科目である。 社会はりきゅう学Ⅱでは多様化する社会的ニーズについて学習する。 研修会やセミナーに参加し、鍼灸について更なる関心の喚起を促す。
		社会はりきゅう学Ⅲ (Social Acupuncture and Moxibustion Ⅲ)	〃	〃	30	(1)	社会はりきゅう学では3年間の学生生活やはり師きゅう師の仕事の理解、自身の目指す「はり師・きゅう師」像、そして将来ビジョンについて主体的に設計し、判断する能力を養う科目である。 社会はりきゅう学Ⅲでは社会人・医療従事者として求められる資質についてや社会人一般としての義務と権利について学習する。また就職活動にあたり必要な知識、マナーについても学習する。 研修会やセミナーに参加し、鍼灸について更なる関心の喚起を促す。

系列		開講科目名 (英語表記)	必修 選択	授業 形態	時間 数	単 位 数	講義概要
専 門 分 野	実 習	基礎はり実技 (Basic Acupuncture Practical Skills)	〃	実習	120	(4)	基礎はり実技でははり術の基本的操作の修得を図りながら日常的な臨床で使用する基本的な刺鍼手技を身につける。
		基礎きゅう実技 (Basic Moxibustion Practical Skills)	〃	〃	120	(4)	基礎きゅう実技ではきゅう術の基本的操作の修得を図りながら、日常的な臨床で使用する基本的な施灸技術を身につける。
		はりきゅう実技Ⅰ (Practice of Acupuncture and Moxibustion I)	〃	〃	90	(2)	はりきゅう実技Ⅰでは1年次の基礎はり・きゅう実技で修得した基礎技術や解剖学的知識を基に施術点を捉え、身体各部へ安全かつ衛生的な施術を身につける。
		はりきゅう実技Ⅱ (Practice of Acupuncture and Moxibustion II)	〃	〃	90	(2)	はりきゅう実技Ⅱでは様々な症候や各診療科における疾患に対しての施術能力を養う。
		はりきゅう実技Ⅲ (Practice of Acupuncture and Moxibustion III)	〃	〃	45	(1)	はりきゅう実技Ⅲでは多様化する社会的ニーズに対応する様々な施術能力を養う。
		美容・老年鍼灸実技 (Beauty and Aging-related Acupuncture and Moxibustion Practical Skills)	〃	〃	45	(1)	美容・老年鍼灸実技では多様化する鍼灸の社会的ニーズに対応できる能力(美容・老年分野)を養う。美容鍼灸の概要、美容鍼灸の実際や代表的な美容トラブルに対するはりきゅう施術を身につける。高齢者に特有な疾患の病態の概要とはりきゅう施術の方法、また施術に際して身体機能低下などによる諸注意事項について身につける。
		スポーツ鍼灸実技 (Sports-related Acupuncture and Moxibustion Practical Skills)	〃	〃	45	(1)	スポーツ鍼灸実技では多様化する鍼灸の社会的ニーズに対応できる能力(スポーツ分野)を身につける。はり師きゅう師に必要なスポーツ医学を基本とした傷害の予防、治療法やコンディショニングを身につける。
	臨床実習	臨床実習Ⅰ (Clinical Education I)	〃	臨床実習	45	(1)	臨床実習では「はり師・きゅう師」としての臨床における実践的能力及び保険の仕組みに関する実践的能力を養い、患者への適切な対応や「はり師・きゅう師」としての自覚を養う科目である。臨床実習Ⅰは外来見学実習とし、病院、介護福祉施設、スポーツ施設にてはり師きゅう師の関わりと業務について学習する。臨床実習前試験を含む。
		臨床実習Ⅱ (Clinical Education II)	〃	臨床実習	135	(3)	臨床実習では「はり師・きゅう師」としての臨床における実践的能力及び保険の仕組みに関する実践的能力を養い、患者への適切な対応や「はり師・きゅう師」としての自覚を養う科目である。臨床実習Ⅱではベッドサイドラーニングの基本である問題抽出、問題解決力を養い、患者との意思疎通の方法を含め、いかに行動すべきかを学習する。また基礎・臨床医学系、基礎・臨床鍼灸医学系で学んだ知識・技術を臨床実習にて総合的に理解させる。
	総合領域	総合演習Ⅰ (General Exercise I)	〃	演習	60	(2)	総合演習Ⅰでは1年次における国家試験該当科目についてグループワークを中心に復習し、総合的基礎知識を学習する。
		総合演習Ⅱ (General Exercise II)	〃	〃	60	(2)	総合演習Ⅱでは2年次における国家試験該当科目についてグループワークを中心に復習し、総合的な基礎知識を学習する。
		総合演習Ⅲ (General Exercise III)	〃	〃	120	(4)	総合演習Ⅲではこれまでに学習した国家試験に出題される主要科目について整理し、基礎医学系科目と臨床医学系科目とのつながりを深める。総合演習Ⅲでは解剖学・生理学・臨床医学各論など国家試験主要科目について再学習する。
		総合演習Ⅳ (General Exercise IV)	〃	〃	120	(4)	総合演習Ⅳではこれまでに学習した国家試験に出題される主要科目について整理し、基礎医学系科目と臨床医学系科目とのつながりを深める。東洋医学概論・経絡経穴学・東洋医学臨床論など国家試験主要科目について再学習する。
		医療連携演習 (Health Care Coordination Practice)	〃	〃	30	(1)	医療連携演習では他の学科の資格がどのような資格なのか、相互理解を深め、将来職種間の連携を通して最良の医療を提供する医療従事者を目指すに当たって必要な知識を養う科目である。医療全体像の変遷に基づき、専門領域を異にする医療、福祉の職種が患者を中心に関与することが求められている。包括的に患者のケアを行うためにそれぞれの役割、責務について学習し、医療の現状を踏まえて連携のあり方について検討する。